

|| 楽しく・輝く ||

手塚イチ子さん(70歳)
千渡在住

「今、とても楽しく過ごしています。とこやかに話す手塚さんは、フラダンスの講師をしています。講師になって五年目です。」



フラダンスをやり始めたきつかけは、交通事故のリハビリを兼ねたことからのこと。また、じつとしてるのが嫌いな手塚さんは、

人生の先輩に「若いうちは多趣味でもいいけれど、最終的には、静と動の二つにしたほうが良い。」とのアドバイスを受けました。

今では動は、フラダンスです。

これは普段、着られない華やかな衣装を着て、楽しく踊れることが魅力です。習い始めて十年経った頃、自分の納得するフラダンスをやりたいと本場ハワイにも行きま

した。現在は、主宰する教室の他、小学校や出会いの森などからも声がかかり、教えに行っています。その生徒さん達に、手塚さん手作りの髪飾りを付けてもらい、付けた髪飾りはそのままプレゼントしてい

ます。「皆さんの嬉しそうな顔が私の喜びです。」と言います。

そして静は、大正琴です。

近所の友達と童謡や歌謡曲等を弾いていましたが、「自分達だけで楽しむばかりでは・・・。」と思い、ボランティアを始めました。あちこちの施設に向き、時にはハーモニカ、太鼓、タンバリンなども使い、音に合わせてみんなで一緒に歌います。帰り際に「また、来てね！」の言葉に元気をもらっています。

家庭との両立は、自分でやろうとか、やりたいとかという前向きな気持ちがあれば、それなりに時間は作れるものです。

「たまには、お友達とお茶を点でて、ゆったりくつろぐこともありますよ。私は『楽しく』をモットーに活動しています。」と話されました。



|| 家族と動物たち ||

竹澤雄子さん(68歳)
千渡在住



夕方四時、二匹の犬と一緒に勢よく庭から出てきた竹澤さんは、楽しそうでした。そして、「私は動物達と一緒に過ごすのが癒されます。」と話されました。

竹澤さんは看護

師として、検診車で県内各地を廻っています。遠くに行く日は朝四時に起き、五時から犬の散歩に出掛け、それから出勤します。「仕事は、犬や猫の餌代の事を思っているのよ。」と言います。

今、飼っている犬五匹と、猫達は全て捨てられていたのを保護したものです。

竹澤さんが、この様な活動を始めるきっかけとなったのは、二十年前、大学に通っていた長男が、捨てられている子猫三匹を拾って来たことからです。

竹澤さんには悲しい思い出がありました。それは、幼い頃、両親を亡くし、八歳で弟と二人、祖母の家に引き取られたのです。幼心に、親の居ない寂しさを心に秘めていました。そんなある日、雨の中に一匹の捨て犬を見つけ、『お

母さんがいないの？私と同じで寂しいのね。』と涙が出たと言います。

今、行っている活動は、捨てられた犬や猫を保護し、去勢、避妊手術を施し、他のボランティアの仲間と共に里親探しをしたり、引き取り手の居ない動物は自宅で世話をしたりしています。

一番大変だった事は、数年前に三十七匹の野良猫の集団を見つけました。この時は、夫や仲間と一緒に餌や水、暖房具を運び込み、二年近く掛けて、ほとんどの猫に手術をしました。これは、これ以上、野良猫を増やしたくないという強い思いからでした。

今、竹澤さんは、「動物を飼った以上、飼い主として最後まで面倒を見て下さい。」と強く訴えます。

そして、『今までこの活動を続けてこられたのも、夫や家族の協力があつたからこそ。』と思っ

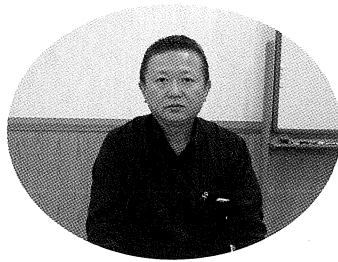
最近、夫から「二人でのんびり旅行もしたいね。」と言われるそうです。「今まで動物が居るので、旅行も二人で行けなかったけど、そろそろそんな事も考えるようになってきました。」と少し嬉しそうに話されました。



Ⅱ 人生の輝きⅡ

笹野幸雄さん(46歳)

久野在住



笹野さんは、現在、鹿沼市情報センターや清洲コミュニケーションセンターで、外国人に日本語を教えるボランティアの日本語を教えるボランティアの先生をしています。教え始めて三年です。日本語教室には、先生も生徒も自由参加の教室と、固定の生徒が勉強する教室があり、生徒の国籍も様々です。

ここに至るまでのきつかけは、十年前のことです。勤務している会社の業績が悪化した時に、自分がリストラされた場合を考えてみました。「自分は他に能力がないのでは。自分自身が成長していないのではないか。」と疑問を持ちました。そして祖母に言われた『人の役に立つ人間になりなさい。』という言葉を思い出し、「今の自分は人の役に立つ人間になれていない。このままじゃいけない。何かやらなくては。」と強く思ったそうです。三十六歳で、英会話を習い始め、

時には中学生と一緒に授業を受けたり、ある時期は、四か所の英会話教室にも通いました。そして、鹿沼市の中級英会話教室に参加していた四年前、日本語教授法について知る機会があり、そのセミナーを受講しました。

今では、知り合った多くの外国人と、コミュニケーションする能力も上がり、仕事やボランティア活動にも活かせています。まさに、日本語教室の先生は、人の役に立っていると感じています。

仕事との両立については、ライフワークバランスや休暇取得を勧める環境が、社内に整えられているため特別に苦労はなく、家庭でも、家族それぞれが行事や予定をひとつのカレンダーに書き込み、お互いに尊重し助けあっています。

これからの笹野さんの夢は、趣味の料理の腕を活かし、楽しみながら英会話を学べるバーをやってみたくとか、日本語教師の資格を取り、定年後は、海外で日本語を教えながら暮らすことなど、いろいろと話していただきました。



Ⅱ 生涯現役Ⅱ

矢野律子さん(62歳)

板荷在住

矢野さんは、妻・母・嫁・姑・祖母・ヘルパー・女性農業者・鹿沼市農業委員と一人八役をこなし、毎日楽しくイキイキと暮らしています。

平成十四年、(現)鹿沼市農村生活研究グループ協議会の会長を降りた後に、女性農業者に推薦されたのは、常々亡き義父が言っていた『何でも、経験になるからやったらうがいいよ。』という言葉でした。

女性農業者とは、魅力ある農業の確立と農村地区の活性化をめざして、自ら農業経営に参画し、農村社会における男女共同参画の促進を図ることを目的に、育成、経済的自立、食と農の大切さを広め、共に学び、研究し夢を実現するという活動で、現在、鹿沼市では七名の女性農業者が活躍しています。農業者として、矢野さん宅の家族協定は、休日のとり方、収入の給料制、親の介護など、家族で協力し無理なく続けられる事を決めています。

魅力ある農業も実践しています。自家製の米・赤飯・漬物など、夏の時期は朝四時頃に畑へ出て、茄子を採り、新鮮な物を直売所へ出荷しています。そして、自分で注文も取り、杵つき餅つき機で作った餅は、

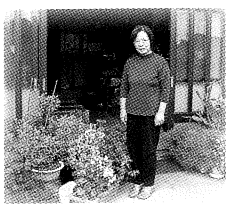
評判も上々です。

また、週二回ヘルパーにも出掛けられています。共働きの息子さん夫婦の代わりに、保育園のお迎えや、夫と子守りをする日もあります。



夫から、「農家はご臨終定年といつて生涯現役なのだから、自分の時間を大切に、健康に気をつけようね。」と言われるそうです。

これからは、日常の仕事と共に、独身の頃身に付けた、茶道・華道などの日本の伝統を、楽しみながら孫に伝えていきたいと目を細めました。その他、夫婦で旅行や日帰り温泉、友人とのストレッチ、インディアカ、まだまだ楽しみは増えるようです。バイタリテイ溢れる矢野さんが、これからの鹿沼市に望む事は、「男女共同参画社会をもっと隅々まで行き渡らせて欲しいです。」という事でした。



男女共同参画社会づくり実行委員会事業



(ホップdeジャンプ)



(ときめき鹿沼2010)

10月2日(土)市民情報センターにおいて平成22年度ときめき鹿沼2010講演会が開催されました。スーパー主夫・山田亮さんを講師に「きつと毎日が楽しくなる」スーパー主夫からのライフワークバランスと題しての講演会は、最初は関西弁のイントネーションに戸惑いながらも講師のお人柄が表れている楽しい主夫生活のお話に引き込まれ、笑ったり感心したりのあつという間の1時間半でした。今や、主夫とまではいかないまでも、家事育児を夫婦でやるのはあたり前の時代です。子育てを終えた熟年夫婦にとっても、豊かな老後を共に過ごすためには大変参考になったことと思います。ワークライフバランス

ときめき鹿沼2010

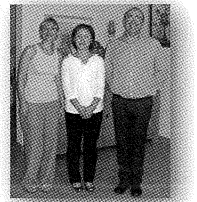
スについて考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

ホップdeジャンプ

男女共同参画社会づくりリーダー育成を目的に、1月15日(土)市民情報センターにおいて、一部海外研修報告会、二部「コミュニケーション力アップして豊かな関係を築こう」と題して、フリーアナウンサー工藤啓子さんの講演会を行いました。参加者の皆さんは、リフレミネングを用いたコミュニケーションのお話にうなずきながら、多くを学ばれたことと思います。講演の最後にひび割れ壺の朗読がありました。私達一人ひとりの心のひび割れ壺に浸み込んだことと思います。

栃木県次世代人材づくり事業

平成22年
10月7日～
10月13日間
(フランス共和国)



(ホームステイ先の家族)

今年度の次世代人材づくり事業の女性リーダー部門に、鹿沼市からは阿部美恵子さんが参加しました。この事業は国際的視野を持ち人間性豊かで地域で活躍する青年リーダー及び女性リーダーの育成を目的に、海外研修を中心に事前研修、事後研修を行う事業です。フランスでは、本県の友好交流都市であるヴォークリューズ県でのホームステイ等を通じて草の根の国際交流を深めました。

阿部さんは、この研修を通して自分が自分らしく生きることが男女共同参画の基本であるということを知り、男女の区別なく自分らしく自分の道を歩む勇気を次世代の子供達に話し、その親にも見守る大切さを伝えて行きたいとし、男女共同参画を推進することによってDV撲滅、児童虐待の撲滅に繋がるものと考えており、そのことが私の役割だとの思いを新たにしたいそうです。

★ いつも幸せに、明るく暮らしたい、でも・・・ ★

配偶者や恋人からの暴力(DV)で、さまざまな不安や心配を抱えている方のために、相談窓口を開いています。「自分自身のこと、家族として抱える悩み」など気軽に相談ください。又、離婚に関する相談もお受けしています。

鹿沼市役所新館2階⑩番窓口 女性相談 ☎63-8352 午前8:30～午後4:30



(女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク)

ひとくちメモ

(小室淑恵著：ワークライフバランスを考えた方より)

「仕事(ワーク)と生活(ライフ)の調和」と訳されます。その本質は、仕事と生活の時間の配分だけを明確にするというものではなく、仕事以外の場を大切にすることによって、仕事も短時間で成果を上げることができるようになるということです。

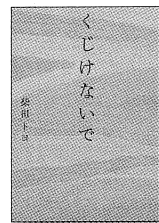
ワークライフバランス



編集後記

- ・私も自分らしく生きていきたいと思えます。(愛)
- ・インタビュールした方の思いを、文章にして伝えることは難しいと感じました。(はむちゃん)
- ・たくさんさんの出会い、素晴らしい仲間へ感謝。(福ちゃん)
- ・先輩方の生き方は人生の励みになります。私も輝きたい！(ハクナマタタ)
- ・これからも素晴らしい人達との出会いが楽しみです。(とんとん)

お気に入りBOOK



「くじけないで」

著者 柴田トヨ
発行所 (株) 飛鳥新社

- ★最近、あなたを叱ってくれる人がいますか？この詩集は強くて、そしてやさしい言葉が詰まっています。これを読めば、誰もが遠い記憶を思い出すことでしょう。一言一言に胸が熱くなる一冊です。
- ★栃木県出身。99歳の詩人。詩と笑顔の写真が、埼玉県入間署の「振り込め詐欺防止対策ポスター」になり、話題となりました。